

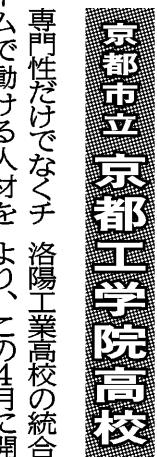
育成 モノづくり人材 Vol. 30

用。新たな工業高校の姿を模索している。中心となるのはプロジェクト工学科。伏見工業の建築・土木の強みを生かした「まちづくり分野」と、洛陽工業の電気・電子機械のア理数科」を中心とした2年次以降に機械加工、ロボット、電気、電子情報の4専攻から選択する。一方、大学進学を目的とした「フロンティアコース」では、語、数学、国語の教育科目として設置した。英語力の徹底を図る。同校の特徴的なカリキュラムに「プロジェクトゼミ」がある。一つのテーマについて、問題の把握から、現状分析、解決策の具現化などを、全学科が一

体となって取り組む。長は「自分の専門を軸にしつつ、専門以外の人と議論して新しいモノを生み出す力が、社会に出ると必要になる」と意義を語る。徒ばかり」と砂田校長は話す。長い伝統と生徒たちの将来を見据えて入ってきた意識の高い生徒たる姿勢がうかがえる。一方で、工業高校のイメージを変えていく。
（京都・園尾雅之）
(金曜日に掲載)

例えば京都の交通インフラの課題。フロンティア理数科が全体のアイデアを出し、プロジェクト工学科が都市設計や機器の製作を担当する、といった授業を想定する。砂田浩彰校長は、「そうした取り組みを進めるためには、大学や企業との連携が不可

専門性だけでなく、チームで動ける人材を育む。京都市立京都工業高校は、市立伏見工業高校の全日制と市立洛陽工業高校の統合により、この4月に開校したばかりだ。分野の枠を超えたカリキュラムで、柔軟に対応できる人材の育成を目指す。立命館中学・高校の旧校舎を改装して活用し、プリンターやレーザー



砂田校長

【DATA】▷校長＝砂田浩彰氏
▷所在地＝京都市伏見区▷学科構成＝フロンティア理数科、プロジェクト工学科▷総定員＝240人▷主要設備＝全館無線LAN、空間情報シミュレーション、レーザー加工機、3Dプリンター▷主な進路（統合前の実績）＝JR東海、JR西日本、阪急電鉄、堺場製作所、島津製作所、日新電機、日本電産、関西電力、ジーイエス・ユアサコーポレーション、京都機械工具、トヨタ自動車、西日本高速道路、関西大学、立命館大学、同志社大学、龍谷大学、金沢工業大学など



タブレット端末を活用した授業

無断転載・複写禁止 (株)日刊工業新聞社